

ジオパーク活動におけるGIS技術の応用－室戸ジオパークの事例－

Application of GIS for geopark activity in Muroto UNESCO Global Geopark

*中村 有吾¹*Yugo Nakamura¹

1. 室戸ジオパーク推進協議会

1. Muroto Geopark Promotion Committee

ジオパークの存在とその意義は、地理学や地質学に携わる者には周知されていると思う。しかし、それ以外の一般の人にはまだなじみが薄いといってよい。たとえば、筆者が勤務する室戸世界ジオパークセンターの来館者に対するアンケート結果を見ると、「テーマパーク」や「動物園」のような施設をイメージして、またそのような施設であることを期待して、「来園」している節がある。室戸世界ジオパークにも「ジオパークセンター」という拠点施設が存在するが、実際には高知県室戸市の全域がジオパークであることはあまり理解されていないのではなかろうか。ジオパークが一定の広がりを持った地理的空間であることは確かであり、その全体を把握するには、地図化することが一番である。情報を常に更新する必要があること、地理学者以外のジオパーク関係者と情報を共有する必要があること、一般に対して情報を提供・公表する必要があることなどの理由から、GISを用いた情報管理が必要になると考える。本発表では、室戸世界ジオパークにおける動物の生息環境調査や、観光開発、施設管理へのGISの利用・応用事例を紹介する。

キーワード：GIS、ジオパーク活動、室戸ユネスコ世界ジオパーク

Keywords: GIS, geopark activity, Muroto UNESCO Global Geopark